

暖地産アイリスの促成に関する研究

(第1報) 福岡産アイリスの促成について

菊本 忠士・松川 時晴

(福岡県園芸試験場)

KIKUMOTO, T. and MATSUKAWA, T.

Studies on the Forcing of Dutch Iris Cultivated in Kyushyu District

(I) On the forcing of dutch iris cultivated in Fukuoka

福岡県における球根生産は、当場の発足とほぼ同時に始まり、栽培方法の確立とともに1960年より県が原種圃を設置したことなどから栽培面積を増大し、1965年には約20haに達して暖地における新興産地では第1位をしめるようになった。

一方、促成栽培面でも多くの検討がなされ、ほぼ栽培技術の確立をみたが、球根生産から促成栽培までの球根の取り扱いについて、一貫した検討がなされずそのため、暖地球根は早掘りされて乾燥がよく、休眠の離脱も早いことから冷蔵感度がすぐれ、早期促成に好適するとされているが、一部ではウイルス病を発現しやすいとの懸念がもたれている。

そこで県内における各産地から栽培農家ごとに供試球根の提供を願つて、促成能力とウイルス病の感染程度の産地間差異を検討した。特に1964年には寒地からも同様に球根を収集して、比較促成した。

【試験Ⅰ】 1964年度における促成検定

品種はウエツシツド(24点)とドミネーター(6点)とし、供試球根のうち県内各地産は7月1～15日、県外の寒地産は7月30日、暖地産は8月10日9cm球(第1表)を入手し、3回にわけて促成した。冷蔵は湿冷で13°C2週間+8°C5週間とし、第1回は7月23日～9月10日、第2回は8月12日～9月30日、第3回は8月25日～10月13日で、魚箱植えとした。開花：第1回の大球では早咲きは40日、おそ咲きは50日と早晩の差が大きかったが、これは球根栽培や収穫後の管理に基づく影響といえる。第2回では寒地産(大球)の富山が61日、新潟が平均で67日、暖地産(中球)では^{ひなしろ}嵯城が69日とおそかつたが平均では61日であり農家別に差が認められた。つまり暖地産の中球は寒地産の大球に対して6日早咲きで、この差は暖地球根の開花促進効果と認められる。第3回では八代産が大球でありながらおそ咲きであつた。これは栽培および貯蔵中

における過程で適切な処置がなされなかつたためと考えられる。

ウイルス病の発現状況(第1図)：商品性のある十～廿は別として、病状の激しい卅～卍の多いことは問題だが、これは必ずしも暖地産だけでなく寒地産にもかなり認められた。また、一般にウイルスが多いとされている暖地産でも全く認められない農家があつた。特に桜井産は県原種ほ(圃)に指定して徹底的に抜取り防除し、優良種球を増殖配布されたもので、しかも適切な管理を行なつた結果であろう。要するに各農家の栽培管理の差と考えられる。

【試験Ⅱ】 1965年度における促成検定

品種はウエツシツド(15点)とドミネーター(15点)とし、供試球根は県内の各産地から7月19日ないし8月2日に10cm球(第2表)を入手し、2回にわけて促成検定した。方法は前年通りで第1回は7月23日～9月10日、第2回は8月6日～9月24日で第1回は魚箱および地植えとし、第2回は全部地植えとした

開花：第1回の魚箱植えは49～51日で開花し、地植えは45～48日で開花した。魚箱植えはややおそ咲きとなつたが、これは地植えと同様に管理した場合には乾燥しやすく適湿を保持しにくかつたためと考えられる。また品種間、生産地域間における早晩には一定の傾向が認められなかつた。第2回では産地別にみると花畑、多々良、日佐および大島産が、その他の元岡、桜井および甘木産に比較してやや早い傾向があつたが、早晩の差は2～4日で問題とするに至らなかつた。

ウイルス病の発現状況(第2図)：卅以上の発現は地域的にみると和臼、元岡および大島などの新産地で高い傾向がみられたが、これは地域差よりも生産者の栽培技術および優良な種球不足と抜取り防除の不徹底や、導入した種球の質そのものの不良によるようであ

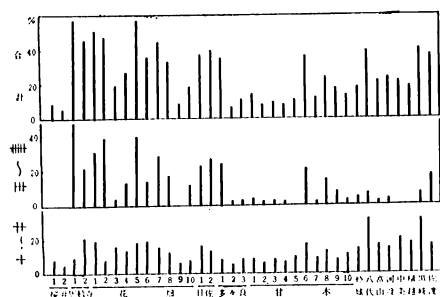
つて新産地育成には関係者の誠実な協力と適切な指導が必要と考えられる。

第1表 収集した球根(第1年目)

産地および農家番号	球根の規格	大球	中球	小球
		21.0g以上	15.0~20.9g	14.9g以下
県内	桜井1	33	69	
	2	8	88	
	周船寺1	6	75	29
	2	18	72	20
	花畑1	20	85	6
	2	11	90	9
	3	20	80	
	4(D)	11	99	
	5	22	76	8
	6	21	89	
暖地	7	11	95	5
	8	3	106	1
	9(D)	22	87	1
	10(D)	33	75	2
	日向佐1	39	66	4
	2	25	82	8
	多々良1(D)	18	98	4
	2(D)	56	53	1
	3(D)	36	74	
	甘木1	19	91	
寒地	2	3	72	36
	3	30	78	2
	4	49	61	
	5	40	69	
	6	22	85	2
	7	69	68	
	8	16	88	4
	9	11	99	
	10	23	86	1
	城代(特大)	77	125	
八代	19			
寒地	富山	146	52	4
	河渡	39	176	6
	中条	28	154	24
	横越	71	112	
豊越	16	82		
佐渡	24	81	1	

注: 表中(D)はドミネーターの意

第1図 ウイルスの程度別発病率の差異(第1年目)



第2表 収集した球根(第2年目)

産地および農家番号	球根の規格	大球	中球	小球
		30.1g以上	25.1~30.0g	25.0g以下
県内	桜井11	9	62	40
	12	1	69	44
	元岡	5	43	60
	花畑1(D)		98	91
	12	2	48	61
	13		28	79
	14	2	6	101
	15		36	71
	16		8	104
	17		43	67
	18		14	96
	19	2	50	58
	20		16	93
	日向佐11	52	42	14
	多々良12	14	54	34
	11	26	76	17
	12	12	76	31
	13	6	95	19
	和太	9	64	50
	寒地	白島		
木		4	27	79
11		5	53	53
13			24	87
14		1	28	81
15			4	106
16		1	17	90
17		2	28	83
18		3	42	65
19			32	78
20		22	88	

注: 表中(D)はドミネーターの意

第2図 ウイルスの程度別発病率の差異(第2年目)

